

発注企業動向調査結果

-2023.7-

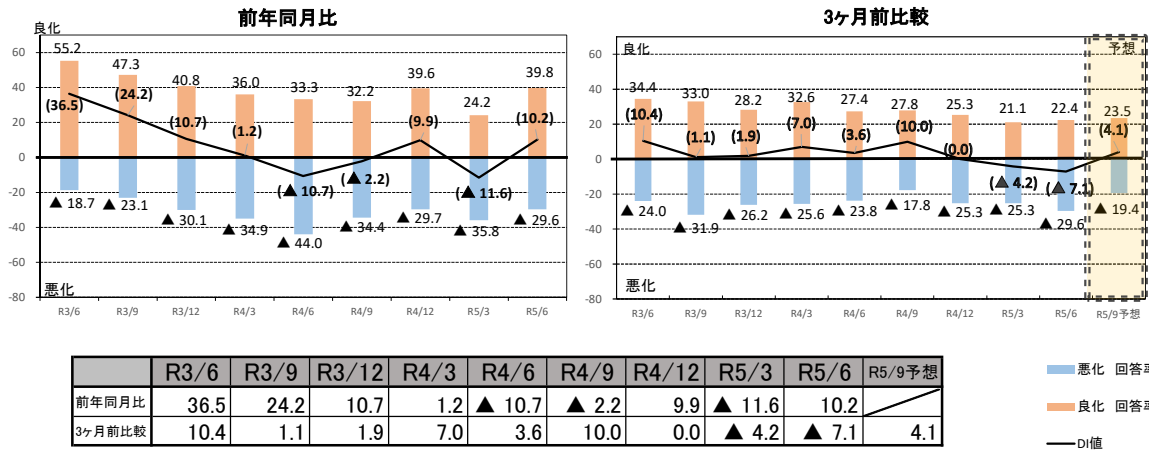
- 調査時点 令和5年6月調査(令和5年6月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 98社(回答率:65.33%)

<業種内訳>

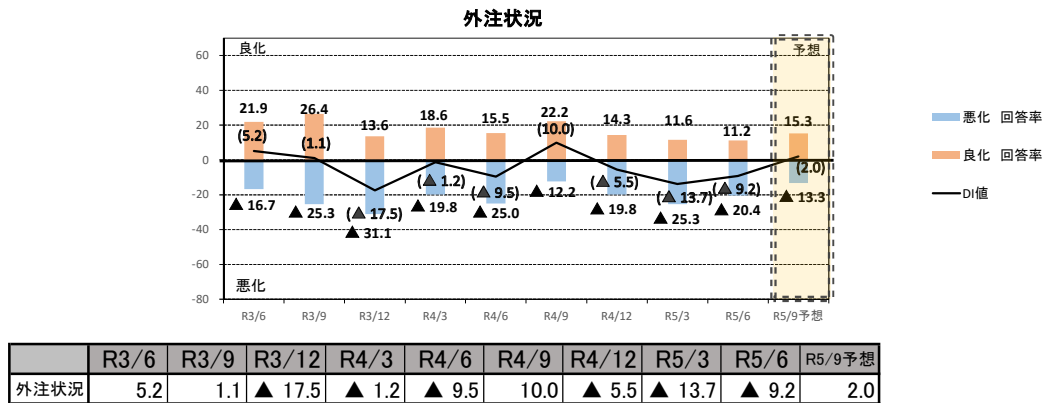
プラスチック	10社
鉄鋼・非鉄	11社
金属製品	9社
一般機械器具	17社
電気機器	26社
輸送用機器	16社
精密機器	4社
縫製	5社
計	98社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

●生産高



●外注状況



●概要(総合)

- ・生産高(前年同月比)のDIは10.2で前回の▲11.6から21.8ポイント増となった。
 - ・生産高(3ヶ月前比較)のDIは▲7.1で前回の▲4.2から2.9ポイント減となった。
 - ・外注状況(3ヶ月前比較)は▲9.2で前回の▲13.7から4.5ポイント増となった。
 - ・3ヶ月後の予想DIは生産高が4.1、外注状況が2.0という予想になった。
 - ・その他自由意見として、
 - ・人材不足が一番の課題である。
 - ・全体的に受注が低迷している。
 - ・半導体製造装置部品の受注大半減少している。
 - ・金属材料の入手に時間を要している。
 - ・顧客からの増産計画により今後益々残業休出となる予想。中途採用にて体質強化したい(先行きの人材不足心配あり)。
 - ・全体的に受注減、部品入手困難傾向にあるが、産業機器関連の案件等多い傾向(海外戻り案件等が多い)。
 - 一方で、
 - ・半導体不足解消、平常な生産に戻り、受注は良好。為替がリスク。
 - ・材料が入庫してきたため、単発の応援要請や受注が増加している。
- という意見が寄せられた。